

With

秋
2005
vol.34

ウィズセンター情報誌

- 夢づくりチャレンジトーク 増田明美さん、石井正弘岡山県知事
- 参画社会へ Let's Go! 柿崎恵子さん、高塚明子さん
- メディアからの発信 石原 正裕さん



「二人はベストハーモニー」北村好孝さん（総社市）

平成16年度情報誌表紙フォトコンテスト優秀賞受賞作品

対談

「女性のチャレンジは社会の活気 ～スポーツから見えてくるもの～」

ますだ あけみ いしい まさひろ
増田 明美さん & **石井 正弘さん**
 (スポーツジャーナリスト) (岡山県知事)

増田明美さんのプロフィール

千葉県生まれ。成田高校在学中、長距離種目で次々に日本記録を樹立する。昭和57年にマラソンで日本最高記録をつくり、昭和59年のロス五輪に出場。平成4年に引退するまでの13年間に日本最高記録12回、世界最高記録2回更新という記録を残す。現在は、スポーツジャーナリストとして多方面で活躍中。大阪芸術大学教授、文部科学省中央教育審議会委員、日本陸上競技連盟理事なども務める。

豊かで活力ある男女共同参画社会を実現するためには、様々な分野への女性のチャレンジが不可欠です。男女共同参画社会への思いや岡山国体への熱いエールを語っていただきました。

女性のチャレンジ支援

石井 今、国では男女共同参画社会実現のための強力な施策として「女性のチャレンジ支援策」を打ち出しています。その一つとして、企画、運営、様々な決定をする立場の女性を、社会全体で少なくとも30%にしたいと進めています。岡山県も、私の就任時14.9%だった審議会の女性委員の割合が、今は28.9%になっています。今年度末には間違いなく30%を超えるというところまでできました。しかし、市町村も、民間もまだまだ少ないので、それも30%ぐらいに持っていかうと取り組んでいます。

増田さんも私も委員として参加している中央教育審議会のような審議会から女性の登用を図っていくべきだと考えています。

増田 中央教育審議会の総会に出席していますと、だんだん女性の委員の数が増えています。そして発言を求められる場面で積極的に手を挙げるのはだいたい女性ですね。会議での発言は議事録になりますから緊張するとなかなか発言できないんです。が、女性が活発に発言できる環境になりつつあることを感じます。しかし一方で、企業の管理職の方々の前で講演した時、一人も女性がいなかったこともあります。女性が随分とチャレンジしやすい環境になってきたとはいえ、まだまだというふうに感じます。

石井 女性の管理職の割合、会社の経営方針を決める取締役の中の女性の割合というのは非常に少ないんです。岡山に大きな工場がある松下電器では、女性の管理職の割合をどんどん増やして、この4年間で割合を倍にしたんです。すごい勢いで管理職が増えてきています。様々な電化製品は、女性が使う割合が高い。したがって、購入する場合の決定権も女性が多いんだと思います。女性管理職が30%以上いる会社は、

売り上げが数年間で30%増えたという新聞記事がありましたが、女性の割合が多いほど売り上げが伸びてきています。商品を比較し、どのようにして売ったらいいか女性の皆さんのアイデアが生かされているということだと思います。

増田 女性は細かいところによく気がつきますし、いざとなったら、スポーツの世界もそうですが、何か捨て身になれるというかパワフルですね。でも、それは支えてくれる、理解してくれる環境があつてのことだと思います。

石井 そういうことを皆さんが応援をしていかなきゃいけないと思うんです。それから女性のエンパワメントですね。女性の皆さんが企画し、立案し、それを実際に実行していく。会議でも最初にぱっと手を挙げて意見を述べる、そういう会議は生き生きとしますね。

増田 企業の考え方が変わってきているのなら、今後はますます期待が持てますね。

石井 企業として業績を伸ばしていこうと思えば、女性の管理職の割合をどんどん増やしていくことだと思うんです。社会全体がこの方向に進んでいくために行政が先頭に立ってやっていく。そして女性の皆さんがその後押しをし、男性にも意識改革をしてもらって、社会全体を男女共同参画に持っていく。少子化の問題とかいろいろ大きな社会全体の問題を考えていく場合にも、男女共同参画社会の実現が非常に大事なテーマだと思います。

岡山県は、男女共同参画推進の拠点施設としてここウイズセンターを開設、男女共同参画の促進条例もいち早くつくって女性の皆さんの取り組みを応援してきていますが、これがどんどん広まっていくことが大事だと思います。

増田 ウイズセンターって、郊外のもっと地味なところに建っているのかなと思ったんです。でも、利用しやすい一番いい場所にある、これだけでも活動を応援してくれている環境なんだとわかります。

先輩方の話を聞くと、職場で男性と同じスタートを切っても、女性の場合には出産、子育ての時期があつて、職場に戻ってやっていくのは大変。それを乗り越えても最も辛いのは、更年期の中で自分が自分らしく仕事をしていくこと。それを職場や家庭のみんなに理解してもらえるかどうか重要だ、と話していました。

スポーツから見えてくるもの

石井 増田さんがオリンピックに出られたのは、女子マラソンが初めて正式種目になった1984年のロサンゼルスオリンピックですね。



増田 岡山出身の人見絹枝さんが1928年にいられたアムステルダム五輪は、女性が近代五輪に初めて参加した大会だったんです。

石井 そのときの人見絹枝さんの日記が最近発見されて、世間は非常に私に対して冷たかったと書いてあるんです。そういう状況の中で彼女があれだけ頑張ったというのは、大変なことだったとつくづく思います。

増田 日本では、女性が短パンという格好をすることに対して、受け入れられる環境ではなかったと思うんです。アメリカのジャーナリストは、人見絹枝さんがドイツの選手と戦って、800mで銀メダルをとったとき、日本女性に対する見方が変わったとたたえています。すごく日本のイメージがよくなったんです。

石井 オリンピックというと、最近日本では女性の選手がメダルをたくさんとってとても元気な感じがするんですが、女性がこれだけ活躍して、非常に注目を浴びようになっている背景というのはどういうことがあるんでしょうか。

増田 実業団という組織の中で陸上競技ができてるのは日本だけなんです。それから指導者が計算し尽くしてやっている。情報をすぐに取り入れるとか知恵を働かせるということでは、日本の指導者は非常にすぐれていると思います。

石井 メダルを目指して頑張っているという女性の選手に対して、それを応援する地域の皆さんの応援団もものすごい元気があって、全体で応援する体制ができているという感じもします。

増田 頑張るのは選手ですが、背中を押してくれるのはそういう声援です。日本ではみんながオリンピックはもちろんのこと、国体では地域、学校、会社などが支えて応援してくれるので、その環境も選手にとってはありがたいと思いますね。

岡山国体で地域の振興を

石井 今年は岡山国体の開催の年です。9月9日に岡山国体夏の大会、10月22日に秋の大会、そして、11月5日に輝い

て！おかやま大会が開会式をむかえます。岡山のPRも、情報発信もしっかりやりながら、環境や人に優しい、そしてITを使う国体として開催したいと思っています。岡山は最近タンチョウと共生する自然と人に優しいまちづくりをしていますので、桃太郎スタジアムの前の池でタンチョウが皆さんを出迎えるというようなことを考えています。

増田 晴れの国の岡山でタンチョウですか。明るくて優雅でいいですね。

石井 人に優しいという面では、子どもからお年寄り、体の不自由な方などあらゆる方が利用しやすいユニバーサルデザインを取り入れています。

また、環境に優しいということでは、晴れの国の太陽光を使ったり、いろんなプラスチック製品も、石油製品ではなくてバイオマスで、また土に返る木やトウモロコシといった生物資源を使って環境を強くアピールするなど、特徴を出していると思っています。

国体開催県としてやるからには、男女総合優勝、天皇杯・皇后杯をめざして頑張ろう、とにかく自分の持てる力を最高に発揮して、素晴らしい成績をとろうという取り組みをしています。

増田 さっき、笠岡から来られたという女性の方が「増田さん、笠岡ではバスケットがあるから見に来てくださいね」って、まるで自分が参加者が選手みたいに言われていました。地元で開かれる国体を楽しみにしているのがすてきだなと思いましたね。受け入れ体制もできて、選手たちを応援したいという気持ちがある。選手たちにとってたくさんの応援を受けて競技できるのは、最高の力を発揮できる舞台になると思います。

石井 岡山の食材をどんどん使いながらおもてなしをして、選手や応援に来られた方々が、もう一回岡山に来ようかと思っただけならば、スポーツを通じて大きな地域の振興、活性化につながっていくと思っています。

講演

「夢を走り続ける女性たち」

講師 増田 明美さん



桃太郎スタジアムに、人見絹枝さんと有森さんの銅像が50メートルの間隔で正面を向いて立っている風景は、女性のチャレンジ、優しさと強さが象徴されていると思います。岡山県はそういう土壤があるんでしょうね。人見絹枝さんは女子陸上界で初めてのメダルをもたらした方です。次にメダルをとったのが有森裕子さんの1992年のバルセロナ。64年ぶりにメダルをもたらしてくれた人が同じ岡山の出身です。メダルを取ったのは、8月2日で、奇しくも人見絹枝さんの命日です。歴史的に見ても人見さんと有森さんて、時代を超えた運命的な何かきずなのようなものを感じます。

「オリンピックってあなたにとってどういう意味を持つのか」という質問に、女性と男性の答えは違います。アテネで金メダルを取った野口みずきさんは、「自分がやってきた練習や監督、コーチ、スタッフをはじめ、私を支えてくれるこのプロジェクトが世界一であることを証明したい」と言っています。男子の選手から絶対に出て

こない言葉です。男子はもっと記録的なことや具体的な順位を言います。

有森さんも「マラソンって自己表現、自分を表現する」と言われます。大きな舞台で結果が出なくても、自分らしく自分のやってきたことを表現したい。人から見られている輝く舞台上で、証明したい、表現したいと思って日々努力しているのですから、強くないわけじゃないんです。そうやって注目されていることを力に変えられる強い選手が残っていくんです。そして監督は、選手を見ているというよりも同じ視点で選手のことを理解しようとしています。マラソンの世界の話ですが、家庭や職場に置きかえて考えてみると、女性が頑張る姿に対して協力してくれる、またやろうとしていることを理解してくれる、そういうことが自然にできると、チャレンジを続けていくことができ、そして、女性がいきいきと生きていけると思います。

参画社会へ Let's Go!

サッカー2級審判員 ～男女が同じ土俵で～

2005年8月、第25回岡山県サッカー選手権大会が開催されました。真夏の太陽が照りつける神崎山公園競技場（岡山市西大寺）には、男性の選手・審判員の中、審判フラッグを振りながらさっそうとピッチ（サッカーのグラウンド）を走り回る、女性の姿がありました。2級審判員高塚明子さん（13日準決勝副審）、柿崎恵子さん（14日決勝副審）のおふたりに、試合終了後お話を伺いました。

サッカーとの出会い…そして審判員へ

高塚 高校生のとき、姉の友人がキャプテンをしているクラブチームに誘われ、なんとなく気軽に入ったのがサッカーを始めたきっかけ。今もそのクラブチームの選手です。「審判をやってみないか」と誘われ、練習試合でルールもよくわからないまま初めて審判を経験した時、選手とは違う視点から試合を見ることのおもしろさを知りました。そこからやってみようと思い、講習を受けて4級、2001年に現在の2級審判員になりました。



高塚明子さん

女性としての苦勞

県内の2級審判登録数は約70人。そのうち現在活動している女性はたった4人（登録は6人）。「試合中、女性の審判というだけで、ここぞとばかりに暴言を吐く選手や観客もいる。罵声をあびせられることもたびたび。でもそんなことでくじけたり、逆上するわけにはいかない。最後まで、正しいと信じるジャッジをするだけです」とふたりは声を揃える。「男女対等でありたいという思いで毎日一生懸命にトレーニングをしています。同じピッチで同じ評価のもとに活動していきたい。審判の経験を重ねることで、みんなに認められていくしかないですね」と柿崎さん。

結婚しても続けたい

「暑い中でもじっとしているより、動いている方が好き、動いている自分が好き。審判員としてさらに上の級をめざすより、審判もサッカーも楽しく長くやりたい。女性の場合結婚するとサッカーをやめてしまう人もいるけど私は多分変わらない。結婚しても、ずっと続けたい」と高塚さん。

男女の垣根なくできるスポーツを小さいころから探していたという柿崎さんは、「今まさにそれにめぐり合えた気持ちです。社会人や高校生の試合の審判が一番好き。いつか今日のようなピッチに立ちたいと思っていたのでとてもうれしいです。やりたいなと思う試合の審判の割り当てが、すんなりと男性と同じようにもらえるようになることが望みです」と話してくれました。



柿崎恵子さん

柿崎 「女子サッカー部をぜひ作りたい」という顧問の先生の呼びかけで高校に入学した年、女子のサッカー部が作られ、「横一線できる」と思って入部しました。高校卒業してすぐ4級審判資格は取っていました。2級は高塚さんと同じく2001年に取得。選手をしながらなるべく多くの審判をやろうと思うと両立するのは難しく、選手を辞めました。選手は男性とっしょにはできないけれど、審判員は男女が同じ土俵でできるから。

想像していたより華奢な体のおふたりですが、ピッチでは女性だということでの違和感は全くありませんでした。試合終了後にもかかわらずふたりに疲れは見えません。達成感に満ちたさわやかな笑顔が印象的でした。

サッカー審判員についての詳細は岡山県サッカー協会事務局へお尋ねください。（☎086(227)5653）

（取材：情報コーナー 林）



▲柿崎さん



▲高塚さん

8月28日
開催

ウィズカレッジ | 津山さん・さん塾 |

夏休み講座

家族で学ぶジェンダー教室

講師 さっちゃん・ともちゃん

さっちゃん・ともちゃんのジェンダー漫才を聞いた後、お二人の進行で、参加した子ども達が、「ジェンダーってなあに?!」という楽しいテキストを使って学びました。



お母さんやお父さん、お姉ちゃんやお兄ちゃんといろいろ話をしながら、家の中で、学校で、仕事で、自分らさって何だろう?と楽しく考えました。

9月11日
開催

女性のチャレンジ支援講座 | “チャレンジ” & “チェンジ” セミナー |

講演「今こそレッツチャレンジ！」

講師 小嶋寿見子さん (特定非営利活動法人 Venus One 代表)

離婚を機に、子どもの頃から考えていた精神的、経済的な自立を目指し、「天の時・地の利・人の和」をモットーに頑張ってきたこと、女性の人生っていったいなんだろうと考えた出来事を率直に明るく話していただきました。

また、能力はみんな一緒だから努力は必要であり、夢を実現させるために細かく明確になるまで考えることの大切さをアドバイスしてくださいました。



●男女共同参画ゼミナール(岡山地域)

審議会や委員会等で活躍する人材や地域リーダーを養成するための男女共同参画ゼミナールを開催しました。

開催日	講義名	講師
7月6日(水)	新世紀おかやま夢づくりプラン 男女共同参画の現状と県の施策	岡山県知事 石井 正弘 岡山県男女共同参画課長 益田佐和子
7月14日(木)	ジェンダーへの気づき ~ジェンダー最前線~ 「話す」こと「聴く」こと	神戸女子大学文学部教授 吉岡志津世 杉原心理相談室臨床心理士 橋本智恵美
7月30日(土)	※女性の生涯にわたる健康を考える ~リプロダクティブヘルスライツの概念から~ 家庭・地域における男女共同参画	大阪樟蔭女子大学人間科学部教授 甲村 弘子 香川大学教育学部長 加野 芳正
8月5日(金)	メディアの中の男女平等 ~情報を読み解き、活かし、発信しよう!~ ※DVの子どもへの影響 ~実践の現場から	メディアウォッチング香川元代表 宮脇 初恵 おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ代表 弁護士 川崎 政宏
8月17日(水)	グループ運営とネットワークづくり(講義と演習)	(有)コラボねっと取締役 石井布紀子
8月26日(金)	※いつかひとり ~50代からの人生選択~ 職場における男女平等	安田女子大学文学部教授 春日キスヨ 岡山労働局雇用均等室長 熊田 彰

※は公開講座

男女共同参画に関する最新の情報や基本となる考え方などの講義を聴き、今後の活動の基礎となる知識を学びました。また、公開講座とした3講義にも大勢の方が参加されました。

メディアからの発信 ● vol.6

新しい仕事場! ラジオの世界

山陽放送ラジオセンター 石原 正裕さん



山陽放送の情報番組「VOICE21」から、今年、新しい仕事場に移りました。「ラジオ」…。懐かしくも、新しい工夫と努力で、その将来を拓かねばならないメディアです。ラジオは、インターネットの登場もあって、広告費を圧迫されるようになり、これまで以上に、面白く、魅力あるメディア展開が必要な時代に突入しています。

センターの主要メンバー18人のうち8人が女性です。その1人に、上司の女性部長がいます。番組とスポンサーの間を取り持ち、どちらの要望も成り立たせる仕事に取り組んできた人です。最近、話をする機会が多いのですが、テキパキと、それでいて、情のある仕事振りは、我が身にはないものです。ダラダラと、それでも、奇跡的に帳尻を合わせる、自分流の仕事も、嫌いではないのですが、少し、人生

の幅が広がった気がします。

センターには、様々な持ち場に、女性がいます。営業ウーマンは、番組制作の視点でスポンサーにアピールできないか、相談をかけてきます。番組とCMを正確に送り出すため、書類とパソコンに目を凝らす女性陣を見ると、「大変だな～」と思います。センターに人数的余裕はなく、結果を出すためには、各々のセクションで、男女を問わず、意識のレベルとスキルを上げなくてはなりません。

男女共同参画とよく言いますが、向上心、創造、そして、未来を見つめる姿勢に、男女の違いがあるうちはありません。新しいセクションで、出会う人々から放送人としての刺激を受け続ける限り、性別を問わずセンターの仲間と「敬意と相互理解」を共有できそうな気がします。

仕事の内容、地位、年齢は違っても、何かを感じさせてくれる人々との出会いが、放送人としての財産になってきました。ラジオセンターの仕事でも、そんな出会いがあることを社内社外を問わず、大いに期待しています。

もちろん、男女を問わずです。当たり前のことですが。

ウィズフェスティバル2005

テーマ **広がる未来 男女の知恵で共同参画**

開催日 11月20日(日)～26日(土)

会場 岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
(オープニング行事は、クレド岡山ビル1階ふれあい広場)

プレイベント 11月8日(火) 10:00～18:00
岡山駅 一番街 いるかの広場

フルート演奏、大正琴演奏、フラダンス、銭太鼓、笠踊り、手踊り、フォークダンス、漫才、オカリナ演奏、バルーンアート、パネル展示など

11月20日(日)

- オープニング……………12:30～12:45
- 開会式……………13:00～13:20
- 女性副知事フォーラム……………13:20～16:00
「これからの地方自治と男女共同参画
～ささえあい ともにつくりよう地域の未来～」
定員:180名

11月20日(日)

- 講演「テレビコマーシャルの男と女
～メディアリテラシー入門～」
16:30～18:30 (主催:岡山さんかく会)

11月22日(火)

- 朗読劇「男女共同参画社会をめざして
～あなたの家庭は? あなたの地域は?～」
13:00～13:40 (主催:津山地域男女共同参画活動推進センター)
- 講演と実演「漢方と中国茶の世界」
14:00～15:30 (主催:14期岡山県女性のパス)
定員 25名、参加料 200円 (お菓子代)

11月24日(木)

- 対談「生活の色 整理しましょう!」
15:00～17:00 (主催:日本色彩福祉協会)

11月23日(水)

- 講演会
「ともに 子育て 自分育て」
13:30～15:30 定員:180名
講師:広岡 守穂 さん
(中央大学法学部教授、佐賀県立女性・生涯学習センター館長)



プロフィール 1951年生まれ。東京大学法学部卒業。専攻は政治学だが、現代日本の社会現象に幅広い関心を持ち、最近では女性の仕事おこし、子育てと子育て支援、市民のNPOを研究している。著書「豊かさのパラドックス」「男だって子育て」「女たちの自分育て」等多数。1991年ベストメン賞受賞。内閣府男女共同参画会議専門部会委員等。

11月25日(金)

- 講演「幸せを育む人間関係
～暖かさや思いやりが伝わる関係を築くには～」
13:30～15:30 (主催:CTクラブ)

11月26日(土)

- 漫才と講演「知っておくと安心な法律
～相続遺言・カード管理・後見人制度～」
10:00～12:30 (主催:実行委員会)
- 登録団体交流会
13:00～15:30

パネル展示 11月20日(日)～26日(土)

岡山女性フォーラム、おかやま女性国際交流会、世界女性会議岡山連絡会、イープくらしきネットワーク、CTクラブ、ウィズセンター

・・・ウィズライブラリー 本・ビデオ・DVDの貸し出しをしています (詳しくは裏表紙をご覧ください) ・・・



図書

『男の未来に
希望はあるか』

・細谷 実
・はるか書房 (2005年)

なぜ男たちは戦いに明け暮れ、仕事に生きようとするのか?そこで得られる幸福とは?男たちの新しい希望と男女の新しい出会いのために、男たちが日々の営みの中で抱える切実な「男性の基本問題」を鮮やかに読み解く。



図書

『虐待という迷宮』

・信田さよ子/シヤナ・キャンベル/上岡陽江
・春秋社 (2004年)

虐待の被害者であるシヤナ・キャンベルの壮絶な体験談、カウンセラーの信田さよ子とアルコール依存症、摂食障害からの回復者である上岡陽江の鼎談が家族の中の暴力であるDV、虐待について解き明かす。



図書

『「子育て支援が親をダメにする」
なんて言わせない!』

・大日向雅美
・岩波書店 (2005年)

東京都港区子育てひろば(あい・ぼーと)の施設長である著者が、子育て支援の理念を原点から見つめ直し、それをどう実践していくのかを綴った挑戦の記録、子育て支援に携わるすべての人への励ましのメッセージ。



DVD

『女はみんな生きている』

・フランス (2002年)
・108分

偶然に街で出会った主婦エレーヌと娼婦ノエミ。ノエミの暗い過去を知ったエレーヌは平凡な主婦としての普通の生活を捨てて、ノエミとともに暗黒の組織に立ち向かう。二人の女性が巻き起こす痛快で爽快なサスペンス。

受講生募集

●ウイズカレッジ

●ライフアップ講座

「本のであいと人のであい」

日時：10月30日(日) 13:00～15:00

場所：ウイズセンター

講師：清水克衛さん (NPO法人読書普及協会理事長)

申込期限：10月20日(木)まで

●津山さんさん塾

「おごづかい大作戦 親子で学ぶ金銭教室」

日時：11月6日(日) 14:00～16:00

場所：津山男女共同参画センターさん・さん

講師：松田里美さん (ファイナンシャルプランナー)

申込期限：10月30日(日)まで

●男女共同参画ゼミナール(津山地域)公開講座

開催日時	講義名	講師
10月1日(土) 13:30～16:00	“リプロダクティブヘルスライツ”ってなあに ～あなたの生・性を大切にしていますか?～	ウイメンズセンター岡山 林 順子さん
10月13日(木) 13:30～16:00	DVの子どもへの影響 ～実践の現場から	おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ代表 弁護士 川崎政宏さん
11月4日(金) 10:30～12:30	メディア社会の中の男女平等 ～情報を読み解き、活かし、発信しよう!～	メディアウォッチング香川元代表 宮脇初恵さん

●会場 津山男女共同参画センターさん・さん
(津山市新魚町17番地 アルネ津山5階)

●募集人数 各回10名
●申込期限 各開催日の3日前まで

問い合わせ
申し込み

受講を希望される方は、①住所、②氏名、③電話番号、④講義名を電話、FAX、ハガキ、Eメール(danjo@pref.okayama.lg.jp)で、ウイズセンターまでお知らせください。ウイズセンターのホームページからもお申し込みいただけます。(http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/)

●キャリアアップ講座(女性のチャレンジ支援事業)

結婚・出産・育児・介護等でいったん仕事を中断し、再就職を希望する女性を対象に、パソコン基本操作と就業に関する知識を学んでいただく講座を開催します。

	岡 山 地 区	倉 敷 地 区	岡 山 地 区
受講期間	11月11日(金)～12月22日(木) 毎週火～金曜日の祝日を除く23日間	H18年10月10日(火)～2月16日(木) 毎週火～金曜日の祝日を除く23日間	H18年11月17日(火)～2月23日(木) 毎週火～金曜日の祝日を除く23日間
時 間	10:00～16:00		
会 場	西日本電子計算学院第1ビル(岡山市駅前町) ウイズセンター	倉敷市倉敷労働会館 (倉敷市稲荷町)	専門学校ピーマックス2号館(岡山市昭和町) ウイズセンター
受付期間	10月11日(火)～10月14日(金)	12月6日(火)～12月9日(金)	12月13日(火)～12月16日(金)
内 容	スキル編：パソコン検定(ワード) 3級程度の技術	スキル編：パソコン検定(エクセル)3級程度の技術	
	アビリティ編：『働く前に知っておきたいワークライフセミナー』 「ビジネスリテラシー」「労働契約・社会保険・税金」「ビジネスマナー」「企業が求める人材」 「面接対策」「応募書類の書き方」「求人状況」等		
定 員	28名(選考により決定)		

●公開講座

再就職を希望する女性を対象に、岡山地区で開催しているキャリアアップ講座のアビリティ編「働く前に知っておきたいワークライフセミナー」の講義の一部を公開講座としています。働きたいと希望されている女性であればどなたでも受講できます。

受講日	10月28日(金)	11月15日(火)
時 間	13:30～16:00	10:00～16:00
会 場	ウイズセンター	
申込締切	10月21日(金)	11月11日(金)
内 容	企業が求める人材	労働契約・社会保険・税金
講 師	まどのきよこ 眞殿京子さん (竹久夢二本舗敷島堂株式会社 常務取締役) たけだむつゆき 武田結幸さん (学校法人武田学園 理事長)	なかもえたかこ 中前貴子さん(社会保険労務士)

※申し込み方法等詳しくはウイズセンター就業相談窓口(TEL 086-235-3309)へお問い合わせください。

表紙写真

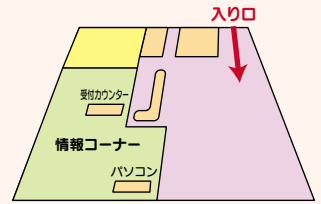
今年度の表紙の写真は、平成16年度に実施したフォトコンテストの優秀賞4作品を順次掲載しています。今回は、「パートナーシップ」をテーマとして選ばれた作品です。



ウィズセンターは **土・日曜日**も開館しています。
お気軽に、お越しください。

センター施設の利用について

シリーズ No.1



◇ 上手に活用しよう 情報コーナー編 ◇

★男女共同参画に関する図書の閲覧、ビデオ・DVDの視聴ができます。また、貸し出しも行っていきます。

- 図書の貸し出しを希望される方は「利用者カード」を提示してください。(初めて貸し出しを希望される方は、名前の確認できるものをお持ちいただき、「利用者カード申込書」に記入をお願いします)。
- 図書の貸し出しは1人5冊まで、ビデオ・DVDは1人2本までです。
- 貸し出し期間は図書14日以内、ビデオ・DVDは7日以内です。



★インターネットで、男女共同参画に関する人材情報、図書情報(当センターの蔵書分)、イベント情報、グループ団体に関する情報や、ハローワークの求人情報等を見ることができます。

- (注)
- プリントアウトもできますが、用紙(A4サイズのみ)はお持ちください。
 - Webメール、掲示板、チャット、ワープロや表計算等のアプリケーションソフトの利用はできません。
 - インターネットを使用される場合も「利用者カード」を提示してください。

ウィズセンターの紹介

男女共同参画社会とは、男女の人権が等しく尊重され、お互いが支えあい、利益も責任も分かちあえる、いわば、女性と男性のイコール・パートナーシップで築き上げるバランスのとれた本当に豊かな社会です。ウィズセンターはこうした男女共同参画社会づくりを推進していくための施設です。

- | | |
|--|---|
| <p>情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 図書・ビデオの貸出 ● 人材情報・各種団体の活動情報の提供 ● 男女共同参画に関する資料の閲覧 | <p>就業支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 就業相談 ● 就業に役立つ講座の実施 ● 就業に関する情報の提供 |
| <p>各種講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 男女共同参画に関する各種講座の開催 | <p>交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供 |
| <p>相談</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 女性の相談員による様々な悩みの相談 ● 弁護士・医師による相談 | <p>広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 情報誌の発行(年4回) ● メールマガジンの配信(毎月) |

DV防止法に基づく「配偶者暴力相談支援センター」としてDVに関する相談や情報提供を行っています。

●ウィズセンター職員の一とこと●

DV防止法が成立して4年、昨年12月には、改正法も施行された。しかし、毎日のように被害者の女性から深刻な相談が寄せられている。夫からの暴力は、犯罪である。被害者支援とともに、意識啓発も当センターの重要な役割、気を引き締めて頑張ろう！ (隅田次長)

講座の企画運営を担当して4年目を迎えました。男女共同参画のトレンドや皆さんのニーズを把握しながら講座・講演会を企画するよう心がけておりますが、皆様から頂戴する様々な情報やアンケートが大変役立っています。こんな講座や講演会をやって欲しいというご要望がございましたら情報提供をお願いします！ (三宅)

ウィズセンター利用のご案内

- | | |
|-----------|---|
| 開館時間 | 火～土曜日/9:30～20:00
日・祝日/9:30～17:00 |
| 休館日 | 月曜日及び年末年始 |
| 相談員による | 一般相談 火～土曜日(祝日を除く)/9:30～17:00
就業相談 (受付は16:30まで) |
| 特別相談(予約制) | 弁護士による法律相談/原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談/原則第1・3金曜日
医師によるからだの相談/原則第1土曜日 |
| 電話 | 086-235-3307(代表)
086-235-3310(一般・特別相談)
086-235-3309(就業相談) |
| ホームページ | http://www.pref.okayama.jp/seikatsu/danjo/ |



交通案内
岡山駅から徒歩10分
バス/NTT岡山前下車すぐ
天満屋バスターミナルから徒歩2分
市内電車/郵便局前下車すぐ

センターへのご意見はご遠慮なくハガキ・FAX・Eメールまたはセンターの提案箱へ

ウィズ秋号 (vol.34) 2005年9月発行
編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
〒700-0821 岡山市中山下1-8-45
NTTクレド岡山ビル17F
TEL(086)235-3307(代) FAX(086)235-3306
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp